

関西バッテリーだより

DENCHY

関西蓄電池人材育成等コンソーシアム



深海から宇宙まで。バッテリーの革新と成長 - 産業界インタビュー（1） -

株式会社 GS ユアサ

経営戦略室 課長 石田 義貴 さん

株式会社 GS ユアサは、日本初の鉛蓄電池を製造したことで知られる旧日本電池と旧ユアサ コーポレーションの経営統合により2004年に誕生しました。今回は入社より15年間リチウムイオン電池（以下、LiB）の開発に携わり、現在は経営戦略室課長を務めている石田 義貴さんに、バッテリー事業についてお話を伺いました。

バッテリー事業の概要

当社は創業以来100年以上、蓄電池の技術を軸に時代を支えてきました。鉛蓄電池は、日本の社会インフラの強化やモータリゼーションの発展に貢献。LiBにおいては、2009年世界初の量産型EVに供給した後、ハイブリッド車（HEV）用、プラグインハイブリッド車（PHEV）用のLiBを供給し自動車の電動化に貢献。また国際宇宙ステーションや世界最大規模の風力発電にも当社のLiBが導入される等、当社の電池は自動車、産業機械、日常生活、さらに深海から宇宙に至るまで、多岐にわたる分野で活躍しています。



宇宙用LiB

次世代技術開発の方向性

当社では[グリーンイノベーション基金](#)を活用し、電池性能の向上を目指して独自開発した高性能固体電解質を用いた全固体電池の実用化に取り組んでいます。また今後も需要拡大が予想される液系のLiBについては、レアメタルを使用しない電池の開発や、長寿命化、リサイクルなど、持続可能性を重視した技術開発も積極的に進めています。今後は電池の領域だけではなく、当社の技術や強みを活かした新規事業にも取り組む予定です。

今後の方向性について

グローバルな市場成長が予想される中、当社は強みである「モビリティ」と「社会インフラ」の2分野において市場機会を捉えたいと考えています。滋賀県での新工場の建設等、LiBの生産能力確保に向けた取組や、グローバルで高い競争力を持つ電池の開発のため、パートナーである本田技研工業とHonda・GS Yuasa EV Battery R&Dを設立し2023年8月から活動を開始しています。さらに主力事業である鉛蓄電池は、グローバルの自動車保有台数が今後も引き続き増加していく予想で、電動化が進んだとしてもシステム起動用に補機用バッテリーとして使用されるため、需要は底堅いと考えており、引き続き蓄電池産業の発展に貢献してまいります。

（※）旧日本電池：1917年設立、旧ユアサ コーポレーション：1918年設立

一方、近年は急速な技術的進化を背景とする市場環境の変化を敏感に察知し、迅速に対応できる企業のみが生き残る厳しい時代と言えます。組織に根付く考え方やルール、企業文化についても、新しい市場で通用しないならば変える覚悟で「革新と成長」を進めていく考えです。

バッテリー事業の魅力

入社後、私はさまざまな用途のLiBの開発に携わってきました。電池は製品に対して非常に重要な役割を担いながらも、大抵は目立たないところで活躍しています。そんな縁の下での力持ちである電池ですが、自分が開発した製品でお客様が喜ばれている様子や、その製品が実際に活躍している所を見る瞬間は、何ものにも代えがたい最高の喜びです。これからも社会や地球環境に貢献できる蓄電池を、世の中に供給し続けていきたいです。



ブルーエナジー第2工場

未来を担う世代に向けたメッセージ

バッテリー産業の更なる発展に向けて、競争力の源泉である人材の確保が重要と考えています。バッテリー教育プログラムの作成においては、現在の学びが将来どのように役立つのかを電池を通して知ってもらうため、電池設計現場で使う話題を選んでいきます。また出前授業では出来るだけ実験も用意し、電池や実験装置に触れることで電池技術の一端を知り、面白さを感じてほしいと考えています。

LiBのモノづくりはたくさんの機械装置で行われ、高度に自動化されています。電池＝化学系というイメージがあるかもしれませんが、化学だけでなく機械、製造、電気電子、ソフトウェアなど様々な分野の人たちのチームワークが必要です。何事にも興味を持つ姿勢、物事を正しくとらえる力、考える力などを持ち、異業種の方でも互いに研鑽し、失敗を恐れず挑戦する仲間が1人でも増えてくれると嬉しいです。

若手社員の声

工業高校卒業後、同社の研究開発センターで活躍する藤原 杏さんにお話を伺いました。

バッテリー産業を選んだきっかけは？

通勤圏内に同社があったことも大きいですが、スマホやライトなどに使われ、非常時にも活躍するバッテリーへの関心が高く、また成長産業であることに魅力を感じました。

どんなお仕事をされていますか？

LiBの試作評価を行う部門に所属しています。作業者の安全を確保するために重要な仕事である設備メンテナンスや、作業効率化のための設備の検討等を行っています。

最近では注液工程の試作設備に関わる治具について、はじめてイチから自身で設計を任せられました。上司に相談しながら検討を進め、完成した際には大きな達成感を得られました。

職場の雰囲気はいかがですか？

自身が携わった仕事により作業効率が向上し、現場から喜びの声が聞こえてくる時、いちばんやりがいを感じます。

最近では技術部門とタッグを組み、新しいLiBの開発に係る設備の設計を進めています。部署を超えて密にコミュニケーションを図り、技術の更なる向上を目指して日々挑戦を続けています。



編集後記

令和5年度から教材作成や出前授業に積極的に携わって下さっているGSユアサさんですが、令和6年12月のデモ授業（高専）、出前授業（工業高校）においても紙面でご紹介した実験の組み込みや、電池、材料のサンプルを見せる等、学生がワクワクするような仕掛けを意識した工夫が印象的です。授業の様子は[当局HP（滋賀県立八幡工業高等学校）](#)でもご紹介していますので、ぜひご覧ください。

株式会社 GSユアサ（株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション）

設立 : 2004年
資本金 : 528億円
売上 : 5,803億円（2025年3月期）
本社所在地 : 京都府京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地

